

「藤沢おれんじプラン」について

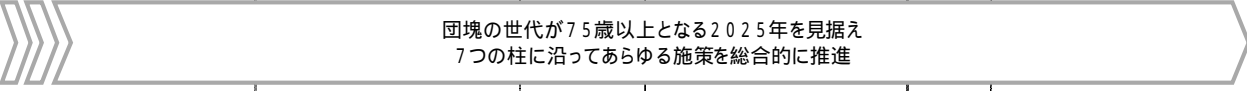
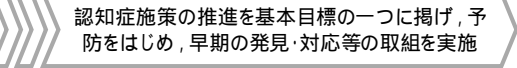
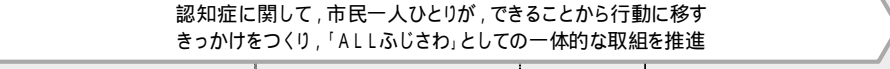
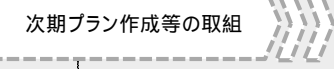
「藤沢おれんじプラン」は、国の「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」及び、本市の「いきいき長寿プランふじさわ2020」における認知症に関する様々な施策や事業を踏まえ、すべての市民に対し、認知症への正しい理解と知識を広げるとともに、あらゆる活動がより一層身近に感じることをめざしています。

本プランの素案は、平成30年12月市議会定例会においてご報告していますが、その後、「本人ミーティング」や「ALLふじさわ合同ミーティング」を開催し、その声を受け止めるなど、認知症ご本人やその家族に寄り添った内容となるよう、追記・修正しました。

1 「藤沢おれんじプラン」の趣旨（資料2 2ページ）

本プランは、令和5年度までの5年間を当面の目標期間と定め、認知症ご本人とその家族を支えるため、市民一人ひとりが、できることから行動に移すきっかけをつくり、地域団体や民間企業、関係機関などの多様な主体と行政とが一体感を創りながら、「ALLふじさわ」としての取組を積み重ね、地域共生社会の実現に向け、藤沢型地域包括ケアシステムがめざす「支えあいの地域づくり」のさらなる推進につなげるものです。

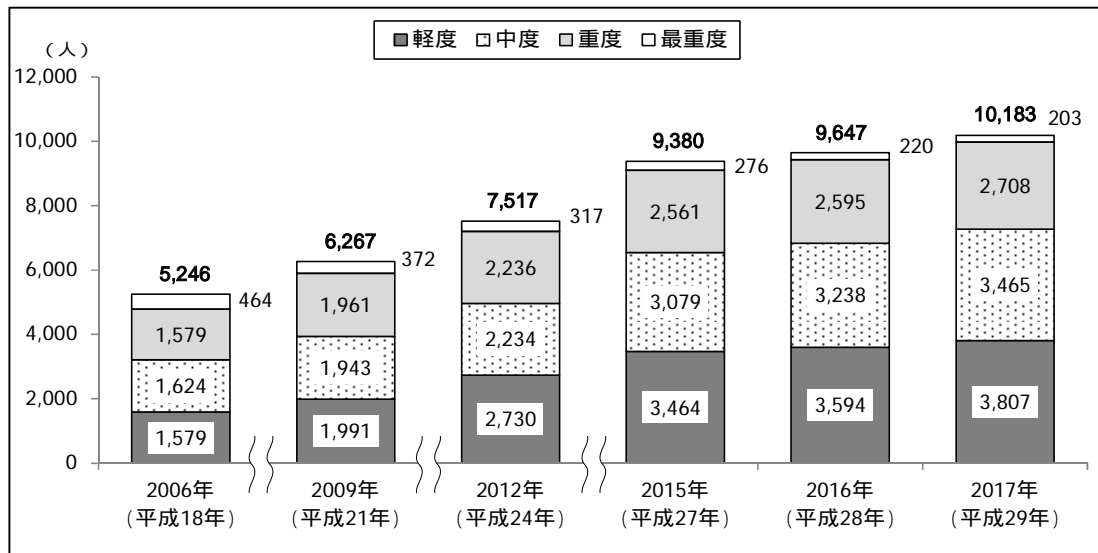
【国及び本市の認知症施策の推進状況】

	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	~	2023年度 (令和5年度)	~	2025年度 (令和7年度)
国	認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)					
	 <p>団塊の世代が75歳以上となる2025年を見据え 7つの柱に沿ってあらゆる施策を総合的に推進</p>					
藤沢市	いきいき長寿プランふじさわ2020					
	 <p>認知症施策の推進を基本目標の一つに掲げ、予防をはじめ、早期の発見・対応等の取組を実施</p>		次期計画		次々期計画	
	藤沢おれんじプラン					
 <p>認知症に関して、市民一人ひとりが、できることから行動に移すきっかけをつくり、「ALLふじさわ」としての一体的な取組を推進</p>					 <p>次期プラン作成等の取組</p>	

2 認知症の人の状況 (資料2 3ページ~)

国の調査研究では、高齢化の進展とともに、認知症高齢者数も増加し、令和7年には、約700万人、65歳以上の5人に1人が認知症になると推計されています。また、本市における介護保険認定調査の「認知症高齢者の日常生活自立度」によると、認知症があると認められる高齢者数は、平成29年9月末には10,183人で、毎年増加する傾向となっています。

【藤沢市の認知症高齢者の推移】



「いきいき長寿プランふじさわ2020」から引用

3 それぞれの立場からの認知症 (資料2 5ページ~)

(1) ご本人からの声を反映

本市では、認知症ご本人の「わたしに関することは、どんなことでも最初にわたしに聞いてください。わたしのことを、わたしを抜きに決めないでください。」という言葉があるように、ご本人に寄り添い、その思いを伺うための機会として、「本人ミーティング」や「個別インタビュー」を実施しています。

こうした場において、認知症ご本人が日頃から感じていることを声として受け止め、認知症に関する施策の充実を図り、本プランに反映しています。

ア 本人ミーティング

認知症ご本人が集い、本人同士が中心となって、自らの体験や求めていることなどを話し合い、自分たちがより住みやすい地域の在り方等を検討する場。

イ 個別インタビュー

外出ができないこと等が理由で本人ミーティングに参加できない方がいることから、認知症ご本人の声をさらに受け止める機会として、市職員が自宅や認知症カフェなどを訪ね、インタビューを実施。

○主なご意見等

- ・ 認知症のイメージ「何もわからない人」を払拭したい。
- ・ 認知症の人は、配慮があれば、普通の生活を送れる。
- ・ 友人に病気のことを伝えたことで、私を理解してもらえ、アドバイスがもらえた。
- ・ 認知症と診断を受けた後の不安や葛藤
- ・ 介護サービスにつながるまでの経緯

(2) ご家族からの声を反映

「ケアラーケア(介護者への支援)」を進めていくために、「個別インタビュー」などで伺った認知症ご本人のご家族からの声についても、本プランで紹介しています。

(3) ALLふじさわ合同ミーティングの開催

認知症ご本人の声を聴き、それぞれの立場で話し合い、暮らしやすい地域の在り方を一緒に考えるために、「ALLふじさわ合同ミーティング～認知症についてみんなで考える～」を平成31年3月に開催しました。

当日は、約100人の方々が参加し、認知症ご本人をはじめ、地域団体、医療・福祉・介護関係事業所、民間企業等と交え、各主体の認知症に関する取組をご紹介いただくとともに、意見交換を実施し、それぞれの立場でどんなことができるのか、一緒に考える機会となりました。また、参加者からは、「自分が所属している団体では、どんなことができるのか」「誰もが認知症になる可能性があるため、認知症ご本人を特別と意識しない」「みんなが活躍できる社会をつくることが重要」等、多くの貴重なご意見をいただいています。

4 現在の取組 (資料2 15ページ～)

本市では、各地区において、様々な主体が認知症の方々を支える活動に取り組んでいます。

(1) 各機関・事業所の取組

本市においては、医師会、歯科医師会、薬剤師会が、その専門性を生かした講演会や相談会などを実施しています。また、福祉・介護事業所等では、それぞれの地区で地域との見守りにつなげるネットワークづくりなどを行っています。

(2) 民間企業の取組

民間企業では、認知症カフェを開催する場所の提供や、おれんじキャンペーンへの協力、さらには、スマートフォンを活用した検索訓練等を実施し、地域住民と協力しながら、見守りネットワークづくりの必要性や有効性の検討を行っています。

また、認知症高齢者等の発見・見守りなど、「支えあい」や「助けあい」による安全・安心な地域づくりをめざし、地域見守り活動に関する協定を締結し、日頃の業務に取り

入れた活動を実施しています。

(3) 地域での取組

地域では、認知症予防につながる運動や、認知症カフェなどの認知症ご本人やその家族が交流できる取組、さらに認知症サポーター養成講座や中学校での特別授業など、様々な取組が行われています。

本プランでは、地域で実施されている主な取組を13地区ごとに整理し、紹介しています(資料2 19ページ~)。

5 めざす地域社会像 (資料2 34ページ)

本プランでは、地域における一体的な取組を進めるために、めざす地域社会像と4つの基本理念を掲げます。

【めざす地域社会像】

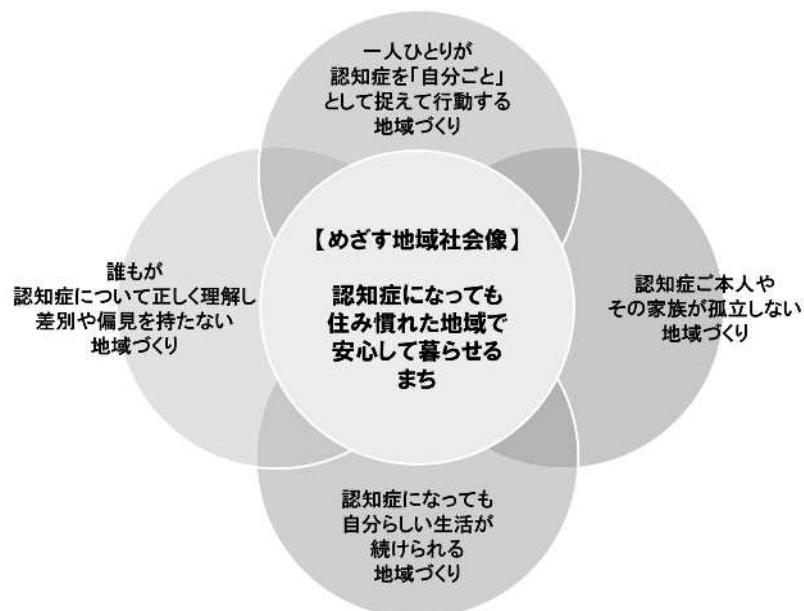
認知症になっても 住み慣れた地域で 安心して暮らせるまち

【基本理念】

1. 一人ひとりが認知症を「自分ごと」として捉えて行動する地域づくり
2. 誰もが認知症について正しく理解し差別や偏見を持たない地域づくり
3. 認知症になっても自分らしい生活が続けられる地域づくり
4. 認知症ご本人やその家族が孤立しない地域づくり

自ら認知症予防に取り組むことは必要です。しかしながら、認知症は確実に予防できるものではないため、地域住民や民間企業をはじめ、医療・介護・福祉関係機関等と行政とが一緒に認知症を考える場をつくり、認知症になっても、誰もが地域社会から孤立しない、安心して住み続けられるまちをめざすことが必要です。

そのためにも、認知症の正しい理解や、日常生活を継続できる環境整備などの充実を図り、本人の思いや希望に寄り添った支援を行っていきます。



(1) 起点は「本人の声」、認知症になっても『自分らしく』

本市では、平成30年度に国の「認知症の人の意見に基づく認知症施策の改善に向けた方法論等に関する調査研究事業」に参加し、認知症ご本人の声を捉える機会として「認知症本人ミーティング」を開催してきました。

ご本人の声を起点として、「みんな」で考え実践していくことが重要であることから、今後も本人ミーティングのほか、あらゆる場面や機会において認知症ご本人とその家族の声を伺っていきます。

(2) 支えあいの地域づくりの視点

認知症に関する課題は、市民一人ひとりのほか、地域団体、医療、福祉関係機関、民間企業などの多様な主体である「みんな」が、それぞれの役割を担いながらも、自分ごととしてできることから行動に移すことが重要です。

また、この様な視点や取組は、認知症にかかる取組を契機とする「支えあいの地域づくり」として、さらには「藤沢型地域包括ケアシステム」の推進につながっていきます。

(3) 一体的な取組につなげる視点

認知症に関する取組については、これまで、地域住民をはじめとする多様な主体により、地域の実情に合わせながら先駆的に行われてきています。今後は、その様な取組をつなげ、大きな輪として認知症ご本人と家族を支えるネットワークをつくとともに、マルチパートナーシップの視点に立ち、本プランがめざす地域社会像を共有しながら、一体となった取組として「ALLふじさわ」で進めていくことが求められます。

(4) 「予防」の考え方～『フレイル予防』と『認知症予防』

生活習慣病を予防・改善することや、コグニサイズなど、体を動かし認知症予防に取り組むことは、より健康的な生活を続けるために必要です。

本市の認知症施策における認知症予防の考え方は、予防、重度化防止の視点のみではなく、認知症であっても、地域の中でより良く生きていくための人との交流、地域とのつながりを維持するための「フレイル予防」を趣旨として進めていきます。

7 令和5年度までの「ALLふじさわ」での目標（資料2 38ページ～）

本プランでは、めざす地域社会像に向け、令和5年度までに取り組むキーワードを3つ掲げ、そのキーワードに応じた目標と実現するための取組の方向性を示しています。

キーワード し 知る

【目標】

正しい知識や対応などを学ぶ場や機会の充実
認知症ご本人の声に寄り添う場や機会の充実

<取組の方向性>

- (1) 認知症に関して、「他人ごと」から「自分ごと」への意識の変換を進めます。
- (2) 認知症ご本人の声を聴き、それぞれの立場で何ができるか考えます。
- (3) 認知症ご本人が地域で暮らし続けるための「応援者」を増やします。

キーワード つど 集う

【目標】

認知症ご本人の活躍の場や機会の充実
認知症について集い語れる場や機会の充実

<取組の方向性>

- (1) 認知症ご本人が思いを発信できる場や機会を作ります。
- (2) 認知症であってもなくても、みんなで認知症について語らう場や機会を作ります。
- (3) 家族などの介護者が孤立しないよう、思いを分かち合える場を作ります。

キーワード ささ 支える

【目標】

地域における見守り体制の充実
認知症ご本人の意向に沿った支援の充実

<取組の方向性>

- (1) 地域における見守り体制の充実を図ります。
- (2) 本人からのSOSや地域の気づきから、適切な専門機関や相談支援につながるよう、ネットワークを強化します。
- (3) 認知症に関する取組を行っている主体間の連携、ネットワークを推進します。

8 本プランの推進について（資料2 44ページ）

めざす地域社会像の実現に向け、本人ミーティングや個別インタビューを継続し、あらゆる場面や機会を捉えながら、認知症ご本人の声とその家族の声を受け止め、地域団体や民間企業をはじめ、多様な主体と連携した取組につなげます。

さらに、本プランが、市民一人ひとりができることから行動に移すきっかけとなり、「ALLふじさわ」として、多様な主体が一体感を持って取り組むことができるよう、普及・啓発を進めます。なお、進行管理については、「いきいき長寿プランふじさわ2020」の認知症施策の推進と併せて、一体的に行います。

9 今年度の取組について

認知症予防の推進や認知症の支援体制の充実強化などに向け、引き続き、庁内外に対する啓発や認知症施策に取り組むとともに、「認知症にやさしい市役所」をめざします。また、市民向けには、VR（バーチャル・リアリティ）技術等を活用した講座の実施をはじめ、新たな視点での認知症施策を推進し、今年度も9月の世界アルツハイマー月間に合わせ、認知症に関連する様々なイベントを実施する、「おれんじキャンペーンふじさわ2019」を行います。

（1）庁内に対する啓発活動

庁内の全職員が、認知症ご本人やその家族への応援者として、今まで以上に認知症に対する理解を深め、行動することを目的に、職員向けの認知症サポーター養成講座やeラーニングを実施し、各部署の所管業務の中に、「認知症の視点」を盛り込むきっかけを創出します。また、認知症施策を推進する中で、各部署が「ALLふじさわ」の一員として連携できるよう取り組みます。

（2）認知症カフェ補助金制度の創設

地域では、認知症ご本人やその家族、地域住民の方々が互いに交流し、認知症の理解を深めることを目的として、認知症カフェが開催されており、広がりをみせています。市では、今年度、認知症カフェを開催する団体等に対して補助金を交付する「認知症カフェ補助金制度（案）」を開始します（開始時期は、令和元年10月頃を予定）。

この制度を活用していただくことで、認知症カフェの活動を今まで以上に広げ、さらに充実していきながら、認知症ご本人やその家族が地域で安心して暮らせるまちの実現につながる取組を推進します。

(3) 『おれんじキャンペーンふじさわ2019』の実施

- ア 認知症普及啓発に関するイベント「(仮称)江の島みんなフェス」
 - ・場所：江の島サムエルコッキング苑内
 - ・内容：認知症ご本人や歌手による音楽イベント
- イ 江の島シーキャンドルのライトアップ
 - ・場所：江の島シーキャンドル
 - ・内容：認知症の理解と支援を広めることを目的に、江の島シーキャンドルを認知症支援のイメージカラーであるオレンジ色にライトアップ
- ウ 認知症ご本人の講演会
 - 「誰もが安心して暮らせるまちをめざして～認知症の人とともに考える～」
 - ・場所：藤沢市民会館 小ホール
 - ・内容：認知症ご本人の体験から、それぞれの立場で何ができるのかを考えるきっかけづくりとして開催
- エ 認知症予防に関するイベント
 - ・場所：藤沢市役所 本庁舎(地域活動見本市と同日開催)
 - ・内容：地域活動見本市の開催に合わせ、認知症予防に関する講演会などを実施
- オ 認知症カフェ「えのカフェ」
 - ・場所：湘南大庭地区 商業施設
 - ・内容：店舗内の空きスペースを利用し、認知症ご本人やその家族、また地域の方々が一緒に気軽に集える、市主催の認知症カフェを開催
- カ 認知症関連図書の展示
 - ・場所：藤沢市総合市民図書館
 - ・内容：認知症を理解するきっかけとして、認知症に関連する図書を集約し、展示するブースを設置

以上

(事務担当 福祉健康部 地域包括ケアシステム推進室)